

東京演劇集団風

# みんなで楽しむ バリアフリー演劇



未だ形を採らない豊かさを求めて

**東京演劇集団風**

〒164-0003 東京都中野区東中野 1-2-4  
Tel 03-3363-3261 [代] Fax 03-3363-3265  
E-mail info@kaze-net.org HP kaze-net.org



劇団ホームページ

子供たちの誰もが「主役」になる、  
バリアフリー演劇のご紹介

## はじめに

「すべての子供たちは芸術の発信者であり、社会に文化の風を吹かせる存在である」  
これまで子供たちを前に行った多くの公演を通じて、劇団員一同、そう肌身に感じてきました。

しかし、実際には「周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」「劇場が近くに  
なく、機会がない」「障害を理由に、寂しい思いをさせたくない」「盲学校とろう学  
校の子供たちが一緒に楽しめる舞台がない」などの理由から、演劇等の芸術鑑賞を  
諦めてきたと多くの先生方から伺ってきたことも事実です。

そのような先生たちの声に応え、一人でも多くの子供たちに「本物の劇場体験」  
を届けたい。既存の舞台芸術が持っている「枠組み・壁」を取り払い、障害のある  
子もない子も、一緒に演劇を楽しんでほしい。そして、違いを持った人同士が違い  
をそのままに、この社会で共に生きていくことの面白さと喜びを知ってほしい。そ  
んな想いで、先生方のご意見を伺いながら、バリアフリーな劇場を創り出します。

「バリアフリー」という言葉に、感性や心を解き放つという願いを込めました。

好きな時に拍手をしたり、声をあげたり、舞台に駆け上がったたりも自由です。そ  
のひとつひとつが、その子なりの表現であり、芸術や文化を愛する心を育てている  
証だと考えています。みんなで感動を分かち合い、ひとりひとりの表現が重なり合  
う場は、自身や友だち、先生や家族と新たに出会い直す場にもなるはずです。

それぞれが多様な色でつくり出す演劇空間。そこで生まれる「小さな共生社会」  
が、子供たちが担うであろう未来の社会の種になること、それが「バリアフリー演  
劇」を通じて私たちの目指すものです。

東京演劇集団 風

## 東京演劇集団風 演目紹介

### 星の王子さま 作：サン＝テグジュペリ 訳：内藤濯 構成・演出：浅野佳成



「かんじんなものは目には見えない。  
心で見なくては」というメッセージとともに、  
すべての人をやさしく、  
想像する喜びへと導くファンタジー作品  
ちっぽけな星で一輪の花と暮らしている小さな王子さま。  
ある時、王子さまは花とケンカをして星をめぐる旅に出ます。  
最後にやってきた地球で、飛行士やキツネと友だちになった  
王子さまは、かけがえのないものを知り、花のために自分の  
星へ帰ることを決意します。  
子供たち、そして先生方も出演して、みんなで舞台をつくりあ  
げる、参加共演型のミュージカルです。

### ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち 作：松兼功 演出：浅野佳成



三重苦の障害のあるヘレン・ケラーと  
家庭教師アニー・サリバン。  
可能性を信じて諦めない心と心がひびき合い、  
ともに生きる喜びを獲得していくオリジナルレパートリー  
幼少期の病のために、見る・聞く・話すことができないヘレン  
と家族のもとへ、若い家庭教師アニーがやってきます。  
「これから一緒に頑張りましょう！」失敗しながらも、自分の  
生徒に向き合い続けるアニーの情熱。そして互いを理解した  
いという好奇心が、家族を巻き込み、ひびき合っていきます。  
自身も脳性まひの障害のある作家 松兼功との共同制作によ  
る、あくなき人間への探求と愛情の物語です。  
物語のなかで、子供たちが指文字と手話で共演します。

## 文化庁

### 学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演事業）

学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業は、小学校・中学校等に文化芸術団体又は個人や少人数  
の芸術家を派遣し、子供たちに対し質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、  
芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施する事業です。子供たち  
の豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家  
や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造につなげることを目的としています。  
ユニバーサル公演事業を設置することで、更に多くの子供たちが文化芸術に親しみ、文化芸術を通  
じて表現の多様性を認識し、障がいへの理解を深める鑑賞・体験機会を提供していきます。

# いつもの体育館で、 ワクワクの 劇場体験を

子供たちが安心して参加・鑑賞できる  
本格的な劇場空間をつくり出します。

トラックいっぱいにも積まれた道具や機材が  
体育館に運び込まれ、  
見慣れた場所が人の手によって  
物語の世界へと変わっていきます。

出演者・スタッフと交流し、  
舞台や道具に自由にふれて、  
身体全体で「演劇」の魅力を味わいます。



## 舞台や人ともっと仲良くなるために――

子供たちが「ここは自分たちの劇場だ！」  
と感じられるように、舞台をまるごと体  
感できるバックステージツアーを実施。

刻々と変化していく体育館の様子を一日  
中眺めたり、音楽やライトを自分で操作  
してオペレーターになってみたり、俳優  
たちとたっぶりふれ合って、リラックス  
して会場に入れるよう工夫しています。

車椅子やストレッチャーの子もいつも  
舞台に登れるように、客席と舞台をつな  
ぐスロープを設置したり、本番前に衣装  
や道具の形をさわってイメージできるな  
ど、障害の有無に関わらず、みんなが舞  
台を好きになれる時間をつくります。



## 観客の声

### バリアフリー演劇と家族・地域

視覚や聴覚の方々だけでなく、私の子供のように特性を持った子たちの中には、話す言葉の早さや、発音の強弱などについてゆけず、聞き取りにくいこともあります。

なので、本当に自然なかたちで舞台の中に溶け込むこと、本来は堅苦しいと感じてしまう手話の方の心あたたまる演出は、時に驚き、笑い、そして胸がきゅっと痛む、誰もがみんな抱えている自分の中の影も見せてくださっているようで、とても身に沁みました（保護者）

私の息子は、本番中ステージに上がり、あちこち動き回ったのですが、足元が見えない暗い場所でも安全に動けるようにライトで照らして下さっただけでなく、重度の障害児を、演劇の中に、あたかも台本どおりのように、「ステージで受け入れ」て下さいました。私は、公演終了後すぐに我が子の行為を皆さんに謝罪しました。邪魔をしてしまいました、と。しかし謝罪は街の皆さんの拍手で消されてしまいました。その拍手は、私の謝罪に対してのものではなく、我が子への支援の拍手だったと思ひ、胸が熱く熱くなりました（保護者）

日頃登校が難しい2年生の児童が「劇を観に学校に行く！」と自分から保護者に言ったそうです。2時間の劇を熱心に観たあと「楽しかった！」と嬉しそうにお母さんに話したとのことでした。「スタッフの皆さんから何度も声をかけて頂いて有り難かったです」と話されていました（熊本県・小学校）

舞台開演中、一人の男の子がずっと舞台の上で動き回り、時には役者に関り、一緒に移動するなど、自由気ままに行動する姿が見られました。普段でしたらそっとその子を舞台から降ろしてしまうのかもしれませんが、役者の皆さんはその子を巻き込み、優しく受け止めながらも、自分たちの演技をしっかりと貫き、物語へ観客を引き込んでいるのが印象に残っています

（社会福祉法人・職員）

クライマックス、子供たちの出番だ。小さな小学校で過ごし、たくさんの人たちの前で発表などば経験のない子たちが、生き生きと手を上にかざし、手話をしている。知っているお話ははずなのに、クライマックスも分かっているはずなのに、涙があふれた。それは、子供たちの生き生きとした表情に触れたからだ。目を赤くはらしながらも、すがすがしい笑顔で帰っていく人々をたくさん見た。小さな島の端っこで感じた、大きな感動だった（地域住民）



## 東京演劇集団風の実績一覧

### 特別支援学校等におけるバリアフリー演劇上演 一覧

特別支援学校 43 校、盲学校 9 校、聾学校 18 校 全国のべ 70 校にて上演（2024 年 5 月現在）  
（知的、精神、情緒、病弱を含む）

東京演劇集団風は文化庁の主催する子供のための事業に 1995 年から参加。障害の有無や地域・年齢を問わず、誰もが一緒に楽しめるバリアフリーな演劇活動、全国での上演に力を注いできました。これまで、31 都道府県・全 70 校の特別支援学校で上演を行っています。さらに近年、多様な表現や感性を学ぶインクルーシブな取り組みの一環として、全国 86 校の小学校・中学校・高等学校でも「バリアフリー演劇」を上演しています。

青森県	盲学校、青森聾学校、八戸盲学校、八戸聾学校	三重県	特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校
岩手県	盛岡聴覚支援学校、盛岡視覚支援学校	滋賀県	聾話学校
秋田県	聴覚支援学校、視覚支援学校、きらり支援学校	京都府	城陽支援学校
福島県	福島大学附属特別支援学校、大笹生支援学校、視覚支援学校、聴覚支援学校、須賀川支援学校、たむら支援学校、だて支援学校、郡山支援学校	兵庫県	神戸聴覚特別支援学校、姫路聴覚特別支援学校、赤穂特別支援学校 姫路特別支援学校、高等特別支援学校、出石特別支援学校みかた分校
群馬県	聾学校、あさひ特別支援学校、赤城特別支援学校、しろがね特別支援学校 太田特別支援学校、沼田特別支援学校、館林特別支援学校、渋川特別支援学校、渡良瀬特別支援学校、吾妻特別支援学校、富岡特別支援学校、前橋高等特別支援学校、高崎高等特別支援学校、伊勢崎高等特別支援学校、太田高等特別支援学校、館林高等特別支援学校	奈良県	ろう学校・盲学校
埼玉県	秩父特別支援学校、県立特別支援学校塙保己一学園	島根県	隠岐養護学校
千葉県	袖ヶ浦特別支援学校	岡山県	倉敷まきび支援学校 倉敷市立倉敷支援学校
東京都	城南特別支援学校、青鳥特別支援学校、水元小台学園、中野特別支援学校、青峰学園	山口県	下関総合支援学校、防府総合支援学校
石川県	小松特別支援学校、明和特別支援学校、いしかわ特別支援学校、ろう学校	徳島県	板野支援学校、ひのみね支援学校
福井県	嶺南西特別支援学校	香川県	香川西部養護学校
山梨県	盲学校	愛媛県	宇和特別支援学校
岐阜県	岐阜聾学校	高知県	中村特別支援学校、日高特別支援学校
愛知県	豊橋聾学校	福岡県	高等聴覚支援学校
		佐賀県	ろう学校、唐津特別支援学校、大和特別支援学校、金立特別支援学校、佐賀大学教育学部附属特別支援学校
		長崎県	ろう学校、佐世保特別支援学校上五島分教室
		熊本県	盲学校・ろう学校、はばたき高等支援学校、ひのくに高等支援学校、熊本大学教育学部附属特別支援学校
		大分県	聾学校
		宮崎県	小林こすもす支援学校、延岡しろやま支援学校

### 自治体・文化施設・社会福祉法人等とのバリアフリー公演

全国 64 カ所、のべ 72 公演実施

自治体・公共文化施設 21 ヶ所、社会福祉法人 37 団体、大学 3 校、文化庁 2 事業（2024 年 5 月現在）

全国の自治体・文化施設、社会福祉法人などと連携し、障害や生きづらさを抱え、これまで劇場に行きたくても行けなかった人たちも安心して参加・鑑賞できる「共生の広場」を各地に運んでいます。

全国の主催者一覧（抜粋）

宮城県	花巻市文化会館	大阪府	自立生活夢宙センター、OSAKA IL SEVEN
福島県	福島県文化振興財団、白河文化交流館コミネス	岡山県	勝央町、勝央町教育委員会
埼玉県	（社福）清心会、じりつ、昴、ほっと未来 SOUZOU 舎	高知県	脳損傷友の会高知青い空
東京都	自立生活センター STEP えどがわ、Kiss ポート財団	福岡県	NPO 法人抱擁
	日本社会事業大学、東京荒川ロータリークラブ	熊本県	西原村教育委員会、御船町教育委員会
山梨県	（社福）ハケ岳名水会	長崎県	新上五島町教育委員会
愛知県	豊川市、パティオ池鯉鮒（知立市文化会館）	宮崎県	（社福）清樹会
滋賀県	（社福）グロー、びわ湖芸術文化財団	鹿児島県	（社福）ゆうかり、奄美市、龍郷町
岐阜県	公益財団法人岐阜県教育文化財団	文化庁	日本博 2.0、戦略的芸術文化創造推進事業 ほか
京都府	同志社大学		